



えびな支援学校では「地域で豊かに暮らし、働く」を基本理念に、さまざまな取り組みを行っています。学校と地域との関わりを校長の新井さんに聞きました。

「地域に広げる」がコンセプト

「えびな支援学校」は中央農業高の樹木・果樹園の跡地にできた県立の学校です。県内にある特別支援学校の児童・生徒数を適正化するため、平成28年に開校しました。小学部から高等部まで



1 サロンは就労の実習の場に 2 手遊びに笑顔がこぼれる



県立えびな支援学校 校長 新井雅明さん

「パラスポーツ」のボールのストラップはいつも身に付けています

日現在の子どもたちが在籍しています。誰もが生まれた時から社会と関わりを持って生きています。教育環境が学校の中だけで完結するのではなく、地域との関わりから広がっていきたくという願いがあり、「地域に広げる」が学校のコンセプトの一つになっています。

力を注ぐサロン活動

「広げる」の分野で特に力を入れているのは地域住民と交流ができるサロン活動です。3年前、社会福祉協議会(以下、社協)からサロンの存在を聞き、「これは学校でもできる!」と。社協や地域の方の協力も得てすぐに「ふれあいサロン」を始めることができました。今は本校を会場に月に2〜3回、地域の方を招いて高等部の生徒がお茶とお菓子を



3

でおもてなしをしています。小学部の子どもたちも加わって学習成果の発表や手遊び、歌を披露する日もあります。中新田には地区社協主催の「ひだまりサロン」というものもあって、中新田コミセンで開催する時には生徒が出向くなど、校外とのつながりを積極的にを行っています。サロンで子どもたちが得るものは計り知れません。例えば、高等部の生徒は、地域の方を「お客さま」として迎えることで、就労の実習ができる。小学部の子どもたちは活動の成果を見てもうえ、恥ずかしがって声

恵まれて今の学校があります。これはとてもありがたいことです。

これからも地域とともに

学校には25〜30人の地域ボランティアがいて、通学時の見守りや学習サポートなどをお願いしています。ボランティアは何人いても困りませんので大歓迎です。また、活動の場として、市民の方に体育館を貸し出ししています。毎年11月に開催する学校最大のイベント「よつば祭」では学校を開放し子ども達の授業公開やクラスでの展示を行っています。

まだ私たちの学校を知らない方が多いと思います。今後あらゆる取り組みで学校を地域に広げ、皆さんに知ってほしい。ぜひ一度足を運んでください。



県立えびな支援学校 中新田4-5-1 ☎(292)5612 📠(292)5620

障害者週間 キャンペーン展示

開12月14日(金)まで 場三井住友銀行ショーウィンドー内えびな支援学校の生徒の作品展示ほか

「ともに認め合うまち・海老名宣言」

「ともに認め合うまち・海老名宣言」は、障がいへのあらゆる差別をなくし、人々が互いに認め合い、支え合うまちになることを目指す障がい者施策の基本理念です。この宣言をより多くの方に知ってもらうため、「解説版リーフレット」を障がい福祉課で配布しています。



障がいに関するマーク

マークの意味を正しく理解して、みんなが暮らしやすいまちを目指しましょう。

オストメイトマーク
オストメイトであることとオストメイト対応のトイレを示すマーク

耳マーク
聞こえが不自由な人と配慮を必要とする人を示すマーク

身体障害者標識
肢体不自由の方が運転している車を示すマーク

聴覚障害者標識
聴覚障がいのある方が運転している車を示すマーク

ヘルプマーク
内部障がいなど外見では分からない方が援助や配慮を必要とする人を示すマーク